

## ことわざに関する対照研究の新しい試み —— レベル別ことわざリストの作成とその応用 ——

鄭 芝淑 (チョン・ジスク)

### 1. はじめに

どの文化においても「ことわざ」と呼ばれる表現が日常の言語生活において重要な役割を果たしている。韓国や日本も例外ではなく、数多くのことわざが日常的に用いられており、いずれの国においてもことわざに関する多くの先行研究が様々な観点からなされている。まず、ことわざの持つ韻律や表現形式、意味などの言語的特性に迫ろうとする言語学的なアプローチ<sup>1</sup>がある。さらに、ことわざがどのように用いられるかという観点から語用論的<sup>2</sup>に迫ることもできる。また、ことわざを民俗学的<sup>3</sup>、社会学的観点<sup>4</sup>から研究し、そこに込められた教訓、風刺、人生観、人間観、自然観などからそれぞれの文化の特質に迫ろうとすることもできる。ことわざはまた、歴史的なアプローチ<sup>5</sup>の対象にもなる。ことわざの由来や意味の歴史の変遷を明らかにしようとするものである。さらに、国語教育や言語教育への応用という観点<sup>6</sup>からことわざを研究することもできる。

ことわざはまた、比較対照研究<sup>7</sup>の対象ともなる。異なる言語文化のことわざを比べ合わせてその共通点と相違点を分析することにより、そこに反映された個々の言語文化の特質の一端を明らかにしようとする試みである。韓国と日本は歴史的、文化的に関係が深く、ことわざの面においても多くの共通性、類似性を持ち、互いに関係が密であると推測される。にもかかわらず、両者を比較対照する研究は断片的なものを除いてはほとんどなされていないのが現状である。

異なる言語のことわざを比較する場合、比較対象とすることわざ群をどのように選定するかが重要なポイントとなる。数多くのことわざのうちどの部分を比較の対象とするかによって、比較対照の結果があいまいになったり無意味になったりする場合がある。適当に選んだことわざ群を比較するのでは、対照結

果は恣意性を免れ得ない。導き出したい結果に好都合な例ばかりを選んで結果を導き出すという循環論に陥る危険性があるからである。これを避ける最も簡便な方法は、大体同規模と思われることわざ辞典を適当に選んで比較の対象とすることであるが、それにもいくつかの問題点がある。

第一に、どの辞典が適切かを判断する客観的基準がない。一口にことわざ辞典と言っても、日本や韓国ではそれぞれ、小規模のものでは200件足らずの小学生向けのものから2万件以上を収録した大規模なものに至るまで大小数十点にのぼる「ことわざ集」「ことわざ辞典」が出版されている。収録件数の多いものほど比較対照の資料として適切であるというわけではない。もちろん、研究課題によってはできるだけ多くのことわざを対象とするのが望ましい場合もあるけれども、対照研究の場合には、一般によく知られたことわざに対象を限定する方が望ましいことも多い。大規模のことわざ辞典に収録されている、ごく一部の人にしか知られていないような特殊のものまで対象を拡大したところで、有意味な分析結果は期待できない場合が多いと思われる。特定の文化のことわざ世界は、必ずしもその文化に属するすべての人に共有されているものではない。しかし、特定文化の「特質」を導き出すためには、やはり、ある程度最大公約数的な部分に重点を置く必要があるのではないかと思われる。一般によく知られたことわざの個数は、どの文化においても500件程度ではないかと推測される。したがって、1000件程度のことわざを収録した辞典のうちのどれかを選択して比較の対象とするのが無難ということになる。しかし、どれを選択すべきかという問題がやはり残る。韓国でも日本でもこの規模の辞典が多いのであるが、それらを比べ合わせてみると、収録されていることわざにはかなりの違いがある。どの辞典をとってみてもそこに収録されていることわざのすべてが一般に知られたものであるわけではなく、また、よく知られていることわざのすべてが収録されているわけでもない。収録すべきことわざの選定は編著者の主観に任されている部分がかかなりあるためである。したがって、そうした中規模辞典のいずれかを比較対照の資料とすることはできない。

第二に、ことわざ辞典では、通常、収録されたことわざが多くの人によく知られているものであるかそうでないか、基本的なものであるか特殊なものであるか、といった「重み付け」はなされていない。小学生向けの学習ことわざ辞典では2段階あるいは3段階にそのような重み付けをしたものも見られるけれども、一般向けの実用ことわざ辞典ではそのような例はほとんどない。また、

重み付けがなされている場合でも、その判断はやはり編著者の主観によるところが大きい。日韓のことわざを比較する場合、テーマによっては、ある程度認知度のレベル付けを持ったことわざ群を対象とすることが必要である。例えば、最も単純な例として、ある特定の語がどの程度ことわざの中に用いられているかを比較する場合、一般によく知られていることわざに限って比較するのと、ごく一部の人にしか知られていないような特殊なことわざまで制限なしに対象として比較するのとでは、結果が大きく異なる可能性がある。

以上のような理由で、異なる言語文化のことわざの比較対照研究のためには、また個別の言語文化のことわざ研究にとっても、何らかの客観的な手続きによって重み付け、レベル付けを与えられたことわざリスト（順位付けことわざリスト）を作成する必要があると考えられる。本稿はその作業の中間段階での結果に基づき順位付けことわざリストの方法論的意味の概要を示すことを目的とする。

## 2. 順位付けことわざリスト

日本と韓国のことわざをどのような客観的な手順で順位付けるかについては、3通りの方法が考えられる。第一の方法は各種ことわざ辞典の調査である。できるだけ多くのことわざ辞典を対象としてどのようなことわざが収録されているかを調べ上げ、多くの辞典に収録されているものほど重要度が高いと評価する方法である。第二は日本語と韓国語の母語話者に知っていることわざを書き出してもらい、多くの人書き出したことわざほど重要度・認知度が高いと評価する方法である。第三の方法として、種々の出版物に見られることわざの用例を調査し、用例の多いものほど重要度が高いと評価することが考えられる。このうち、第三の用例に基づく評価方法は調査に要する時間や労力に比べてあまり有効であるとは言えない。なぜなら、稿者が数十冊の本を対象に予備的に調査してみた結果、200～300頁程度の書物から採集できることわざの数はせいぜい20件足らずに過ぎないからである。使用頻度のランク付けに必要な5000件以上の用例を得るためには少なくとも300冊以上の書籍を調査しなければならない。また、見落とす危険性も高いため厳密を期することもできない。コーパスを利用すれば厳密性は保証されるかもしれないが、用例数の点では同じことである。100万語（節）程度のコーパスで採集できることわざは500個を超えることはないと思われる。よく知られているようにことわざは主として口頭で

使われるものであって、書物の中で使われることは意外なほど少ないのである。将来的には、テレビやラジオ番組から採集することも試みたいが、これもかなりの時間を要すると考えられる。したがって、本稿の調査では、第一と第二の方法を取ることにした。

## 2.1 ことわざ辞典調査

上述のように個々のことわざ辞典にどのようなことわざが収録されているかについては主観的な面がかなりあるけれども、多数の辞典を照合して平均化すればことわざの重要度に関してかなりの客観性を持った結果が得られるというのがことわざ辞典調査の眼目である。本稿の調査でこれまで使用したことわざ辞典は日本語と韓国語それぞれ 19 点である。順位付けを細かく行うためには調査対象が多ければ多いほどいいので、最終的には日本、韓国とも 30 点程度を調査資料とする予定である。詳細な順位付け自体にはそれほど意味はないが、必要に応じて柔軟にレベル区分を行うためには細かく順位付けられているほうが便利である。

これらの辞典を照合しことわざの重要度を点数化し順位付けたのであるが、その際、重要度の区別を行っている辞典の情報はそのまま点数化に盛り込むことにした。たとえば、内山博仁監修『まんが超速度理解ことわざ』では、ことわざにつけた星の数で重要度を 3 段階に区分しているが、もっとも重要度の高い星 5 つのものを 3 点、以下 4 つのものを 2 点、3 つのものを 1 点にした。ただし、これらの点数差は便宜的・機械的なもので特別の根拠はない。

中小規模のことわざ辞典の調査によって、韓日両方に関してこれまでそれぞれ約 7000 件のことわざに順位付けることができた。このリストは必要に応じて重要度の指数に従って様々にレベル分けすることができる。今、仮に重要度の高いものから、レベル 1 (100 件程度)、レベル 2 (300 件程度)、レベル 3 (300 件程度)、レベル 4 (400 件程度)、レベル 5 (400 件程度) のように区分すると、それぞれのレベルには次頁の表 1 に示すようなことわざが属することになる。

## 2.2 十分間想起回答式アンケート調査

順位付けことわざリストを作成するための第二の方法であるアンケート形式の調査には様々な調査形式が考えられる。時間を限定しないで 10 件とか 20

表1 レベル別ことわざのサンプル

レベル	日本語	韓国語
1	あぶ蜂取らず 石橋をたたいて渡る 急がば回れ 犬も歩けば棒に当たる 縁の下の力持ち	가 . (ザリガニはカニに見方する) 가 . (行った日が市日) ( ) (掻いて吹き出物) (雉の代わりに鶏) 가 . (枝多き 木に風の凧ぐ日なし)
2	花より団子 坊主憎けりや袈裟まで憎い 無理が通れば道理が引っ込む 論語読みの論語知らず 笑う門には福来る	. (蟻の穴から 功積みし塔崩れる) (川渡って火事の見物) . (転んで来た石が めり込んだ石を抜く) . (学ばざる者筆を選ぶ) 가 가 . (お暇するお客 の後ろ姿の粹なこと)
3	馬鹿の一つ覚え 初めは処女の如く(終りは脱 兎の如し) 花は桜木人は武士 腹八分(目)に医者いらす 腹も身の内	가 . (女房がかわいけりや女房の実家の杭を見ても お辞儀をする) . (子供の喧嘩が大 人の喧嘩になる) 가 가 가 . (十二の芸を持つ者に夕飯の糧がない) . (掛けなら牛でも 屠って食う) (失敗すると 祖先のせいうまくいくと自分のおかげ)
4	貧乏人の子沢山 下手の長談義 蛇に噛まれて朽ち縄に怖じる 開いた口へ牡丹餅 相手変われど主変わらず	. (入る情は 知らぬが出る情は知る) (内じゃ乞食外分限者) . (身なりが悪くてすぐれた者はなく、身なり のよい愚か者もない) 가 . (風の吹く日に 粉売りに行く) . (岩を蹴れば 自分の足先だけ痛い)
5	鯛の尾より鰯の頭 叩かれた夜は寝やすい 男子の一言金鉄の如し 知恵と力は重荷にならぬ 宝の山に入りながら空しく帰 る	(韓笠かぶって頭突 きしても自分の勝手) (犬の態度が 憎くて蛸を買う) (犬穴に網巾をかける) . (犬の肉はいつも 同じ味だ) 가 . (貧しい家から親孝 行が出る)

件とか一定の数のことわざを書いてもらう形式や、あるいは時間を限定して思いつく限りのことわざを書いてもらう形式などが考えられる。今回の調査では

後者の方法を採用し、10分間で思いつくことわざを書き出してもらうという形式を取った。日本と韓国とで、あるいは年齢層別に想起個数の違いがあるかどうかとも同時に調査したかったためである。10分間という時間制限は、学校などに依頼する場合15分が限度であると判断したのと、10分あれば十分な数の資料を取れると考えたためである。

### 2.2.1 調査様式

調査に用いたアンケート用紙は、想起したことわざを書くための1から25までの番号付けをした罫線ブランクシート1枚と、年齢、性別、身分・職業など回答者に関する個人情報を得るための質問、およびことわざに関する意見を問うための5つの設問<sup>8</sup>からなるアンケート用紙1枚である。

想起回答用のブランクシートには指示文は書かず、「十分間で思いつく限りのことわざを書いてください。」という指示は口頭で行うこととした。これは、想起し筆記するための時間をできるだけ厳密に10分に限りたかったためである。

### 2.2.2 調査時期および調査対象

調査は2003年3月～7月の期間に日本と韓国で行った。調査対象者を「中学生」「高校生」「大学生・大学院生」「学生以外(49歳以下)」「学生以外(50歳以上)」の5通りの年齢層に区分し、それぞれの区分毎に50名程度の回答者を得ることを目標とした。しかし、実施した結果、年齢層区分毎の回答者数には表2のようにばらつきが生じた。

表2 回答者数

区 分	日 本	韓 国
	回答者数	回答者数
中学生	79	60
高校生	111	59
大学生	117	69
～49	15	47
50～	28	43
計	350	278

日本での調査では、中学生・高校生は名古屋大学教育学部附属中学校・高等

学校の協力を得て、それぞれ2年生を対象として実施した。大学生・大学院生は名古屋大学と愛知淑徳大学の学生を対象とした。学生以外の回答者については、筆者が講師を務める韓国語教室の学生および韓国語・韓国文化に関する集まりの参会者に依頼した。その他の関係で依頼した回答者も若干名含まれている。

一方、韓国での調査では、中学生、高校生、大学生は筆者の母校である韓国の羅州（ナジュ）中学校、高等学校、木浦大学の学生に依頼した。中学生と高校生については、日本と同様2年生を対象とした。学生以外の回答者は、筆者の親族を通じて依頼した。

### 2.2.3 調査結果

今回の調査には、ことわざの想起個数によってことわざの順位付けを行うことと、日本と韓国とで、あるいは回答者の年齢層により想起個数に違いが見られるかどうかを確かめることの二つの目的があった。しかし、表2に示したように年齢層毎にかなりのばらつきがあったので、第二の目的に関しては有意な分析結果を出せる段階には達していない。今後同じ調査を継続し、各年齢層毎に100名程度まで回答者数を増やした段階で改めてその分析結果を報告したい。第一の目的に関してはある程度の順位付けを行うのに十分な資料が集められたと判断されるので、その分析結果の一部を以下に示す。

これまでの調査の結果、日本と韓国でそれぞれ約500件の異なることわざが得られたが、そのうちの順位の高いもの、つまり回答者数の多かったもの20位までを示すと次頁の表3の通りである。

また、複数の回答者があったものを回答者数に従って便宜的に次の表4のように5つのレベルに分けてみた。

表4 ことわざのレベル分け

レベル	回答者数	ことわざの個数	
		日本語	韓国語
1	50人以上	27	28
2	20人以上	47	38
3	10人以上	44	57
4	5人以上	67	62
5	2人以上	130	104
合計		315	289

表3 回答数の多いことわざ(1位~20位)

順位	日 本	回答数	韓 国	回答数
1	犬も歩けば棒に当たる	264	가 가 . (昼間の話は鳥が聞き、夜の話は鼠が聞く)	160
2	猿も木から落ちる	250	. (牛をなくして牛小屋を直す)	150
3	豚に真珠	243	가 (往く言葉が美しくこそ来る言葉が美しい)	146
4	猫に小判	214	. (焚かぬ煙突から煙が上がるうか)	120
5	馬の耳に念仏	212	. (足のない言葉が千里に行く)	119
6	弘法にも筆の誤り	135	. (石橋も叩いてみて渡れ)	112
7	石の上にも三年	122	. (紙一枚でも力を合わせれば軽い)	106
8	棚からぼたもち	122	(仰向きに寝て餅を食べる)	97
9	急がば回れ	121	. (三歳の時の癖が八十歳まで行く)	97
10	河童の川流れ	120	. (一言で千両の借りを返す)	92
11	鬼に金棒	91	. (鎌が目の前に置いてあるのに「の」字も分からない)	89
12	石橋を叩いて渡る	89	. (おとなしい猫がかまどに先に上がる)	85
13	泣き面に蜂	86	. (針泥棒が牛泥棒になる)	76
14	塵も積もれば山となる	84	(千里の道も一歩から)	68
15	二階から目薬	84	(井の中の蛙)	67
16	壁に耳あり障子に目あり	80	가 . (スッポンを見て驚いた者が釜の蓋をみて驚く)	64
17	早起きは三文の得	76	. (鳥が飛び立つと梨が落ちる)	63
18	暖簾に腕押し	73	(塵積もって泰山)	63
19	花より団子	62	. (鼠の穴にも陽光が差し込む日がある)	62
20	仏の顔も三度まで	58	. (生まれたての子犬は虎の怖さを知らぬ)	62

各レベルのことわざの例を5件ずつあげると表5に示したようなものが含まれる。このような複数回答者のあったことわざのほとんどは、ことわざ辞典の調査で選ばれた順位付けリストの上位500位までに含まれており、両調査が互



いに矛盾するものではないことが確かめられた。

表5 各レベルのことわざのサンプル

レベル	日本語	韓国語
1	犬も歩けば棒に当たる 豚に真珠 猿も木から落ちる 猫に小判 馬の耳に念仏	가 가 . ( 昼間の話は 鳥が聞き、夜の話は鼠が聞く ) 가 . ( 牛をなくして牛小屋を直 す ) 가 . ( 往く言葉が美し くてこそ来る言葉が美しい ) 가 . ( 焚かぬ煙突から煙が上が ろうか ) 가 . ( 足のない言葉が千里を行 く )
2	能ある鷹は爪を隠す どんぐりの背比べ 月とすっぽん 転ばぬ先の杖 三人寄れば文殊の知恵	가 . ( 牛の耳にお経読み ) 가 . ( 空車がずっと騒がしい ) ( 絵の中の餅 ) 가 . ( 友達について江南へ行く ) ( 金剛山も食後の景 )
3	鶴は千年、亀は万年 帯に短したすきに長し 腐っても鯛 鬼のいぬ間の洗濯 人の噂も七十五日	가 . ( 枝多き木に風の 凧ぐ日はない ) 가 . ( 小雨に衣の濡れを知ら ぬ ) 가 . ( 目を蔽うてニャオという ) 가 . ( 十遍伐って倒 れない木はない ) 가 . ( 怨讐は一本橋で 出会う )
4	あつものに懲りて膾を 吹く 老いては子に従え 安物買いの銭失い 案ずるより産むが易し 憎まれっ子世にはばか る	가 . ( 枯れ葉が 松葉にかさかさするという ) 가 . ( ソウルへ行って金さんの家探 し ) 가 . ( 髭が三尺でも食 えてこそ両班 ) ( 服が翼 ) ( 凍えた足元に小便かけ )
5	元の木阿弥 馬には乗ってみる人に は添うてみる 同じ穴のむじな 雉も鳴かずば打たれま い 鬼のかくらん	( 薬局に甘草 ) 가 . ( パッタも真夏がひとと き ) 가 . ( 角ばった石ころが打たれる ) ( 耳に掛ければ 耳掛け、鼻に掛ければ鼻掛け ) 가 . ( 平壤監司も自分が いやならそれまでだ )

### 3. 順位付けことわざリストの利用

ことわざ辞典調査の結果と十分間想起回答式アンケート調査の結果を総合して最終的に順位付けことわざリストを確定する予定であるが、そのリストは

様々な形でことわざ研究に利用することができる。現在稿者が念頭においている利用法のうち主なものを指摘することにする。

### 3.1 ことわざの特質の分析

ことわざの持つ韻律、表現形式、意味内容などの特質に関しては、どの文化のことわざについても多くの先行研究がなされている。そのような特質は、意識的か無意識的かは別にして、おそらくことわざ以外の一般的な言語表現と対比することによって抽出されたものと思われる。しかし、ある特徴が特定の言語文化のことわざの特質であると言うためには、単一の言語文化のことわざだけを見ていたのでは不十分で、他の言語文化のことわざと比較対照することが必要である。異なる文化のことわざを比較対照し、その共通点と相違点を明らかにすることによって、それぞれの文化のことわざの特質を浮き彫りにするというのが「比較ことわざ学」の基本的な目標である。前述のように、異なる言語文化のことわざを比較する際、同じ手順、同じ基準で画定された順位付けことわざリストが重要な役割を果たすと思われる。

よく知られよく使われることわざであるほど、順位付けことわざリストで上位にランクされることわざであるほど、ことわざの特徴が色濃く反映されていると推測される。口調のよさ、表現の簡潔さ、比喩の奇抜さ、教訓や風刺の面白さなど、ことわざの特徴を強く持っているものほど、よく知られよく使われると考えられるからである。したがって、レベル区分付きの順位付けことわざリストにおける個々の特徴がどのように分布しているか、その状況を調べ上げてこれを対比させれば果たしてその特徴が真の特質であるかが明確になるであろう。例えば、前掲の表3に示したことわざは十分間想起解答式調査で回答数が多かった上位20位までのものであるが、いずれも順位付けことわざリストにおいても上位にランクされると考えられる。これらのことわざを比較してみると、日本語のことわざでは「体言止め」の形式のものが、「豚に真珠」「猫に小判」「馬の耳に念仏」「弘法にも筆の誤り」など20件のうち14件にのぼる。これに対して、韓国語の例では体言止めのものは「(仰向きに寝て餅を食べる)」「(井の中の蛙)」「(塵積もって泰山)」」の3件に過ぎず、大半は完全な文形式のものである。韓日のことわざ全体を見れば、韓国にも数多くの体言止めのことわざがあり、日本にも完全な文形式のことわざが多数ある。しかし、このように、上位にランクされるもので見ると、

体言止めが日本のことわざの特徴であることが端的に示される。

### 3.2 ことわざの認知度の調査

次に、ことわざの認知度の調査についても順位付けことわざリストは有効であると考えられる。日本では、ことわざが日常的にあまり使われなくなっており、ことわざを知らない人が増えていると言われる。一方、韓国では相変わらずことわざが世代の別を問わずよく知られており、日常生活でよく用いられていると思われる。これは漠然とした印象に過ぎないが、それを確かめる方法は様々あると考えられる。上に述べた十分間想起回答式アンケート調査もその一つである。<sup>9</sup>韓国と日本のことわざ認知度の違いを調べるためのより効果的な方法として、次のようなテスト形式の調査が考えられる。たとえば、「豚に（ ）、ガ（ ）」のように、後半を省略したことわざを完成させるという形式の問題を50問程度解かせて、その平均点で韓国と日本のことわざに関する知識の度合いを比べようというものである。このような後半部補充式のテストの場合、どのようなことわざを選ぶかということがテスト結果の信頼性を大きく左右すると考えられる。適当に選んだことわざに基づいたテストからは、有意な結果、信頼が置ける結果を期待できない。そこで、韓国と日本の順位付けことわざリストのうち上位1000件程度をそれぞれ5つのレベルに区分し、各々のレベルから後半部補充式のテスト形式に適したことわざを10個ずつ選んでテストを行えば、テスト結果に対する信頼性は格段に高まると考えられる。同様の手順で問題を2種類作成してテストを実施すれば、テスト方法の信頼性をチェックすることも可能であると思われる。

### 3.3 国語教育・外国語教育への応用

ことわざは日常の言語生活において重要な役割を果たすものであるから、国語教育や外国語教育においてことわざを教えることが有意義であることは言うまでもない。特に、外国語教育においては、外国語の背景文化を理解し、外国語の運用能力を高める上でことわざは効果的な素材となる。どのようなことわざをどのような順序で提示するかについては、様々な観点から考えなければならないであろうが、その決定に際して、ランク付けられた順位付けことわざリストは大きな助けになると考えられる。

本稿は、2003年9月20日に韓国日本語学会第8回大会（於：韓国京畿大学）において口頭発表した原稿に加筆・修正したものである。

### 注

- 1 韓国のことわざに関する研究の例を挙げれば(以下、註7まで同様) (1971)、(1988)などがある。
- 2 (1994)、 (1994)など。
- 3 (1972,1976)、 (1980)など。
- 4 (1986)、 (1989)など。
- 5 (1967)、 (1991)など。
- 6 (1973)、 (1999)など。
- 7 (1982)、 (1987)など。
- 8 設問1「ことわざに興味がありますか」、設問2「ことわざをよく使いますか」、設問3「ことわざをよく耳にしたいと思いますか」、設問4「ことわざをどこで見たり聞いたりしますか」、設問5「ことわざから国民性や文化の特徴が分かると思えますか」
- 9 調査の中間段階の集計結果であるが、韓国と日本の調査結果を比べ合わせると、平均想起個数において韓国の方が日本より3件ほど多いことが分かった。

### 参考文献

- 奥津文夫(1978)『英語のことわざ - 日本語のことわざとの比較』サイマル出版社  
 キム・ハノ(1986)『日・韓・英語ことわざ辞典』蝸牛社  
 ことわざ研究会編(1997)『ことわざ学入門』遊戯社  
 森下喜一&カ・ヘギョン(2000)『日韓類似ことわざ辞典』日帝社  
 若松 実(1975)『韓国ことわざ選』高麗書林  
 (1980)『 』  
 (1993)『 』  
 (1967)『 』  
 (1972)『 』  
 (1982)『 』  
 (1973)『 』  
 (1987)『 』  
 (1994)『 』  
 』  
 (1982)『 』  
 (1994)『 』  
 (1982)『 』

( 1971 ) 「	」	『	50	』
( 1999 ) 『		』		
( 1986 ) 『		』		
( 1988 ) 『		』		
( 1997 ) 『	』			
( 1999 ) 『	』			
( 1989 ) 『				』

